

## 第 22 回：時代時代の

会長 田中 仙堂

東京国立博物館の「茶の湯」展には、ご協力いただきありがとうございました。

今回の展覧会は週末に夜9時まで開かれていましたが、それは東京オリンピックのインバウンドを予想した試みとのこと。インバウンドとは、最近よく耳にする言葉ですが、訪日外国人旅行者を指します。その人たちを意識して日本の文化の代表する展示は何かと考えたら、「茶の湯」ということになったとのオープニングの挨拶を聞きながら、「内地雑居」もインバウンドだったのだなあと思いました。

内地雑居とは、明治 32 年にこれまで外国人居留地に制限されていた移動が自由になり、外国人が日本国内のどこにでも自由に旅行できるようになることを指します。

明治 31 年、大日本茶道学会は、国内を外国旅行者が自由に移動することができる状況を前にして産声を上げたのです。大日本茶道学会の設立趣意書には、「茶道の本旨を明らかにし、もって国粹を保存し、外はすなわち宇内万国に示し」とあります。宇内万国(世界)に示しとは、居士は、意気軒昂、氣宇壮大だと思っていたのですが、今のわれわれのような気分だったのでしょう。そういう時に、世界に示せる日本の文化とは何かと考えて、茶道をとりあげた仙樵居士は、「茶の湯」展の先駆者でもあったわけです。

ミッションステートメントは、「時代時代のライフスタイル」と続きますが、ライフスタイルに限定せず、大きな時代の変化を考えることも大切だと考えております。

平成 29 年 8 月発行 会報「えんじゅ 92 号」掲載